

テープ状目地材を使用した ウレタン防水によるマンション屋上改修工事

(株)秀カンパニー

はじめに

防水改修工事において、既存下地が保護コンクリート仕上げである場合の伸縮目地の処理は既存目地材を撤去・清掃の上、バックアップ材を詰め、ウレタン系シーリング材・骨材入り樹脂・ウレタンゴム系塗膜防水材料などを充填し、へら等で平らに補修するのが一般的である。

しかしながら、工程や天候条件によっては目地内の清掃や乾燥時間が充分に取れず、充填材との接着不良が発生することもあり、防水施工業者の悩みのタネである。

そこで、今回これを解消する当社製品「メジ

キーパー」が採用された東京都練馬区のマンション改修工事の事例を報告する。

工事概要

施工物件：ガーデンハイツもと

所在地：東京都練馬区

施工面積：705㎡(屋上)

施工期間：平成26年10月29日～11月30日

構造・規模：RC造3階建(賃貸住宅27世帯)

既存下地：アスファルト防水熱工法保護仕様

使用工法：ウレタンゴム系塗膜防水絶縁工法

施工会社：(株)高野工務店

施工工程

施工工程は図-1のとおり。

材料の特長

同材は、粘着付きPETフィルム、ブチルゴム系粘着材(自着層)、7mmピッチで配置されたガルバニウム鋼板から成るテープ状の目地材である。

テープ状であることから取り扱いが容易で、テープ幅100mmと幅広のため目地部の欠損補修も少なく、目地内の水分や乾燥状況に大きく左右されることなく目地処理が行える。

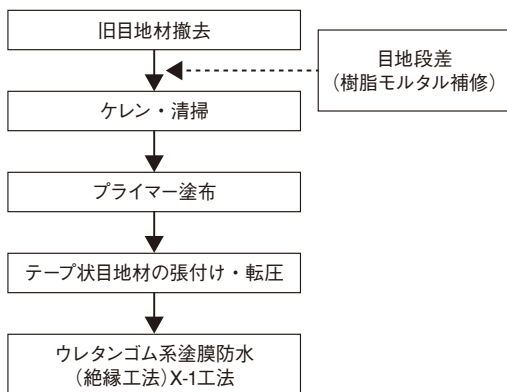


図-1 施工工程

◀▶▶▶ 居住者が満足するマンション改修 ▶▶▶▶



写真－１ 目地材施工



写真－２ 目地材施工完了



写真－３ 通気緩衝シート施工



写真－４ 屋上防水工事完了

このため、従来の補修方法に比べて材料の充填などによる汚れが少なく、小人数で施工が完了できた。同材の施工完了後の作業についても、連続して次の工程を行えたため、全体の施工期間の短縮、それに伴う工事費用の縮減が図れた。

新規防水層である、ウレタンゴム系塗膜防水材や通気緩衝シートとの接着性も良好で、仕上りにも問題はなかった。

■ 施工上の留意点

目地に張り付ける際、同材が目地の中央部にくるように十分に注意して施工を行った。また、ゴムローラーで転圧を行い、テープの両端も付着するようしっかりと転圧した。

脱気筒を取り付ける場所は、カッターナイフ

で金属片部を1～2枚分切り取った。

新規防水が絶縁工法であったため、同材を施工した同日に通気緩衝シートを張れるよう工程管理には特に留意した。

■ おわりに

当該工事期間中に、施主に同材の現物と施工状況を見せたところ、材料および工法に好感と安心感をもたれ、施工側の信頼を深めることに繋がった。

今後は、目地材として以外でも同材の特徴に施工業者のノウハウを加味して、鉄部の漏水箇所、腐蝕孔の補修下地材としてなど、使用用途を開拓できると考えている。

(代表取締役 野口秀夫)